

【2】第3次食育推進行動計画

1 計画の概要

(1) 計画の目的

国においては、令和3(2021)年3月に、「第4次食育推進基本計画」を策定し、国民の健康や食を取り巻く環境の変化、社会のデジタル化など、食育をめぐる状況を踏まえ、①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、②持続可能な食を支える食育の推進、③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進に重点を置いて食育に関する施策を進めています。

本市においては、平成30(2018)年度から令和9(2027)年度を計画期間とする「第2次食育推進行動計画」において市民の食に関する施策を展開してきましたが、第4次食育推進基本計画の内容や社会情勢等を踏まえて、新たな「第3次食育推進行動計画」を策定します。

(2) 計画の期間及び目標年度

「第3次食育推進行動計画」の計画期間は、「第3次健康たけはら21」と同様に令和6(2024)年度から令和17(2035)年度までの12年間とします。

具体的な目標値についての目標年度も、「第3次健康たけはら21」と同様に令和16(2034)年度として目標を設定します。

(3) 計画の評価

「第3次食育推進行動計画」の評価については、「第3次健康たけはら21」と同様に、令和11(2029)年度を目途に中間評価、令和17(2035)年度に最終評価を実施します。



かぐやぱんだと食の七福神

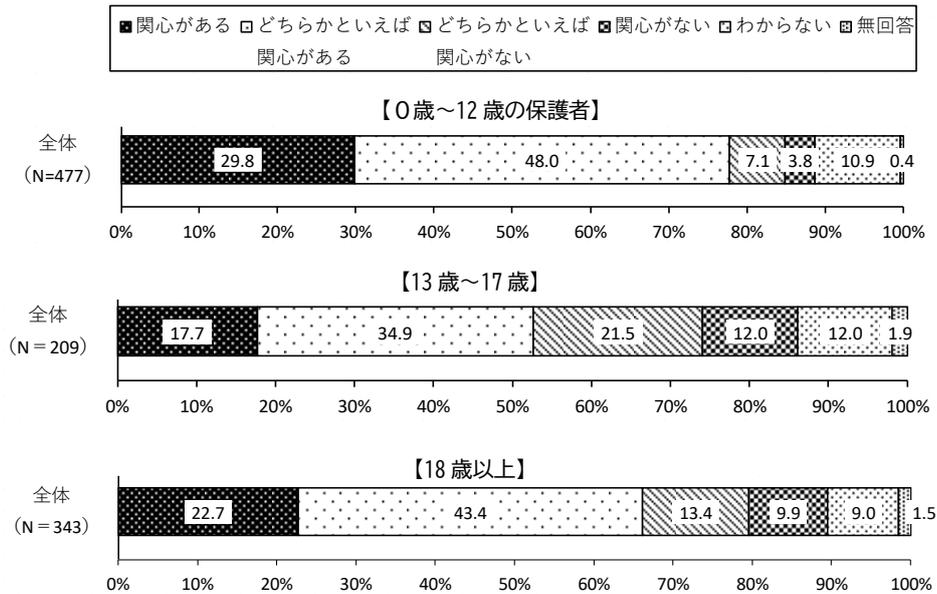
2 竹原市における食をとりまく状況

(1) アンケート調査結果

① 食育への関心

「食育」への関心については、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合計した『関心がある』の割合が、「0歳～12歳の保護者」は77.8%、「18歳以上」は66.1%、「13歳～17歳」は52.6%の順となっています。一方、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合計した『関心がない』の割合は、「13歳～17歳」は33.5%、「18歳以上」は23.3%、「0歳～12歳の保護者」は10.9%の順となっています。

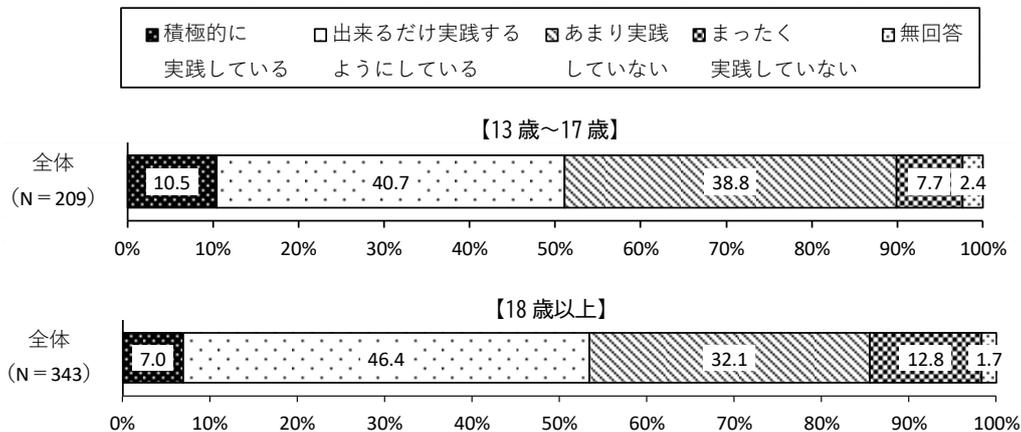
【食育への関心】



② 食育の実践

「食育」の実践については、「積極的に実践している」と「出来るだけ実践するようにしている」を合計した『実践している』の割合が、「13歳～17歳」は51.2%、「18歳以上」は53.4%となっています。一方、「まったく実践していない」と「あまり実践していない」を合計した『実践していない』の割合は「13歳～17歳」は46.5%、「18歳以上」は44.9%となっています。

【食育の実践】



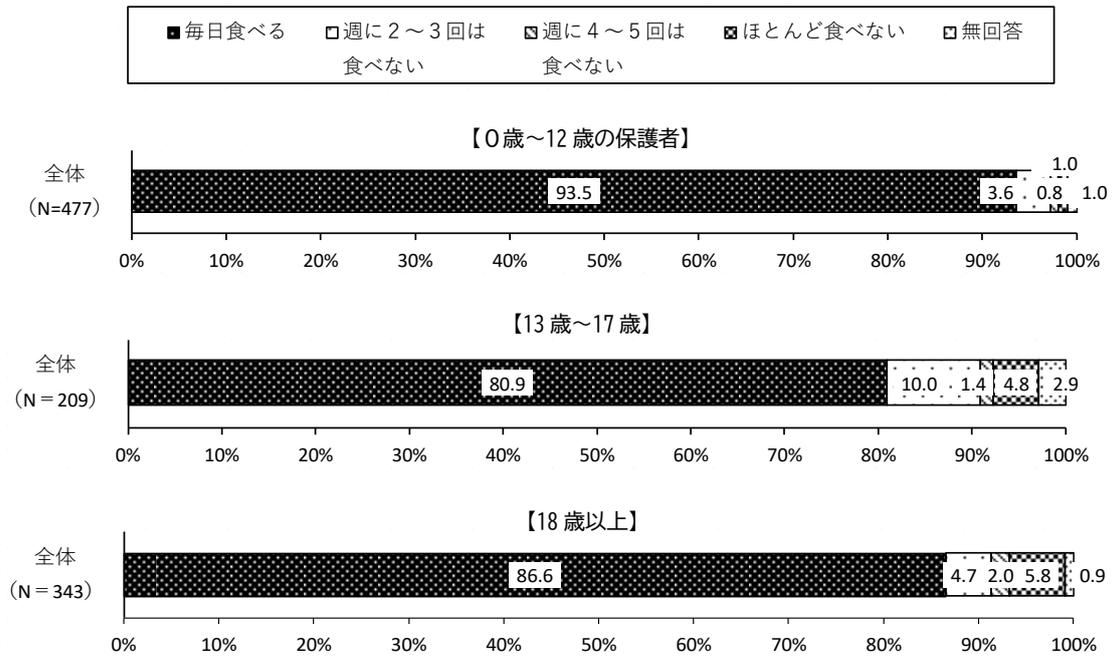
③ 朝ごはんを食べる頻度

朝ごはんを食べる頻度について「毎日食べる」の割合は、「0歳～12歳の保護者」が93.5%、「18歳以上」は86.6%、「13歳～17歳」は80.9%の順となっています。

「毎日食べる」以外を回答した割合では、「13歳～17歳」が16.2%と最も高く、次いで「18歳以上」(12.5%)、「0歳～12歳の保護者」(5.4%)の順となっています。

特に、「18歳以上」では5.8%、「13歳～17歳」では4.8%が「ほとんど食べない」となっています。

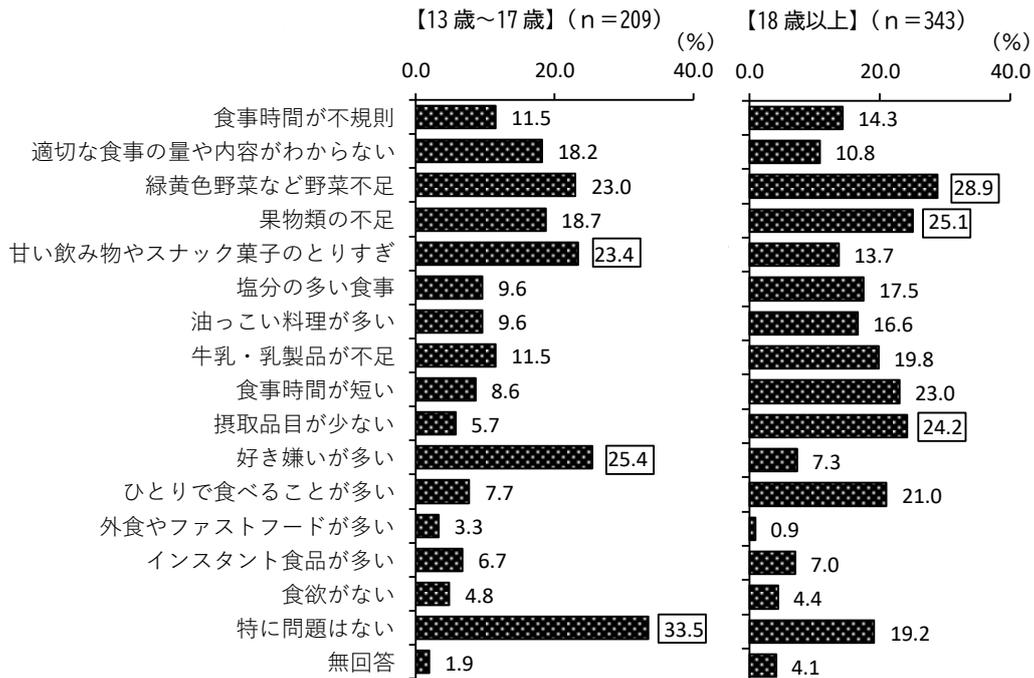
【朝ごはんを食べる頻度】



④ 自分の食事について

ふだんの食事について思うことについて、「13歳～17歳」は「好き嫌が多い」の割合が25.4%と最も高く、次いで「甘い飲み物やスナック菓子のとりすぎ」(23.4%)、「緑黄色野菜など野菜不足」(23.0%)、「果物類の不足」(18.7%)、「適切な食事の量や内容がわからない」(18.2%)の順となっています。一方、「18歳以上」では、「緑黄色野菜など野菜不足」(28.9%)、「果物類の不足」(25.1%)、「摂取品目が少ない」(24.2%)、「食事時間が短い」(23.0%)、「ひとりで食べることが多い」(21.0%)の順となっています。

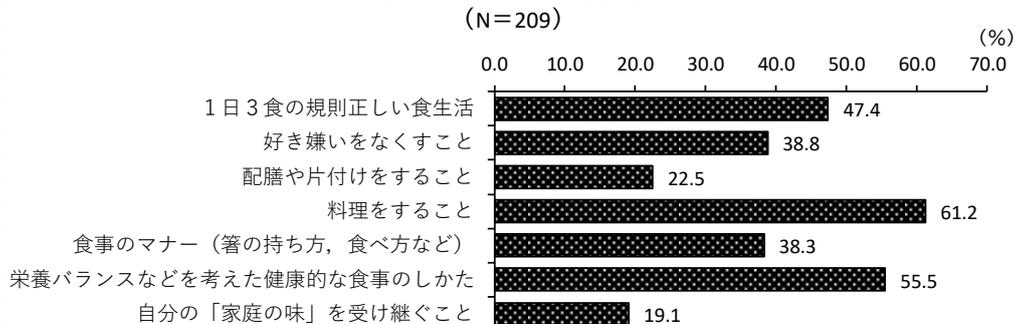
【自分の食事について】



⑤ 身につけておきたい食習慣について

「13歳～17歳」では、将来自立することを考えて身につけておきたい食習慣について、「料理をすること」(61.2%)が最も高く、次いで「栄養バランスなどを考えた健康的な食事のしかた」(55.5%)、「1日3食の規則正しい食生活」(47.4%)、「好き嫌いをなくすこと」(38.8%)、「食事のマナー(箸の持ち方、食べ方など)」(38.3%)の順となっています。

【身につけておきたい食習慣】



⑥ 共食の状況

《朝ごはん》

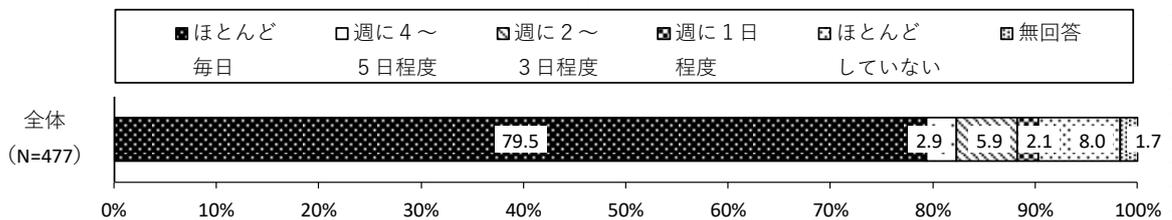
家族と一緒に朝ごはんを食べる頻度について「ほとんど毎日」の割合は、「0歳～12歳の保護者」は79.5%、「13歳～17歳」は47.4%、「18歳以上」は46.9%となっています。

一方、「ほとんどしていない」の割合は、「13歳～17歳」は37.3%、「18歳以上」は24.8%、「0歳～12歳の保護者」は8.0%となっています。

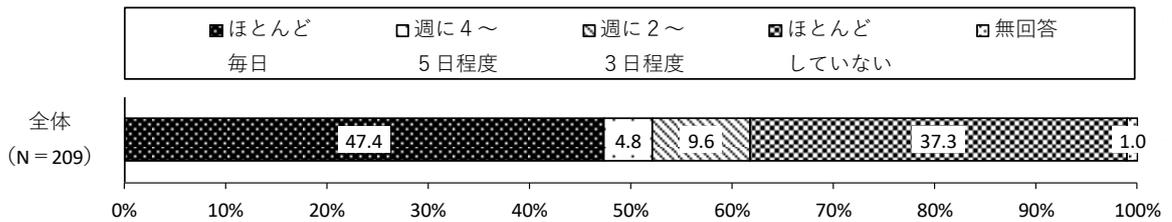
また「18歳以上」では、「ひとり暮らしや、その他の理由で一緒に食事できる人がいない」の割合が12.2%となっています。

【共食の状況（朝ごはん）】

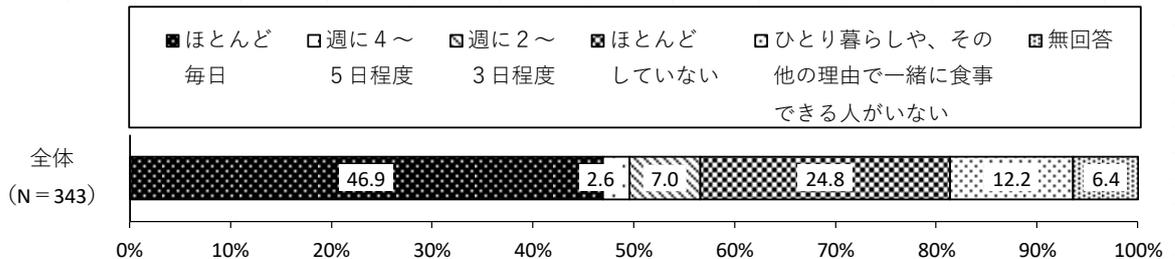
【0歳～12歳の保護者】



【13歳～17歳】



【18歳以上】



《夕ごはん》

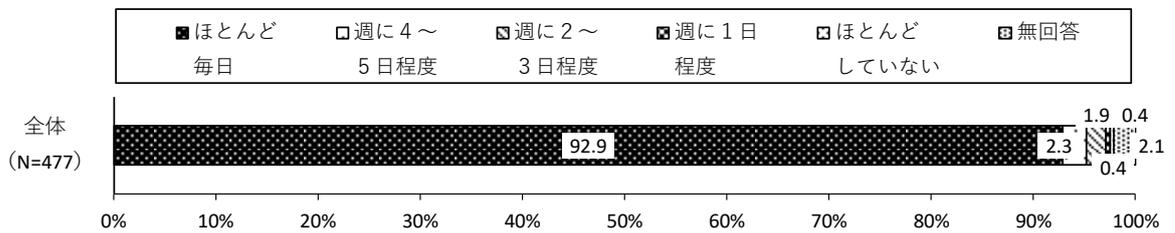
家族と一緒に夕ごはんを食べる頻度について「ほとんど毎日」の割合が、「0歳～12歳の保護者」は92.9%、「13歳～17歳」は70.8%、「18歳以上」は66.2%となっています。

一方、「ほとんどしていない」は「13歳～17歳」は7.2%、「18歳以上」は6.7%、「0歳～12歳の保護者」は0.4%となっています。

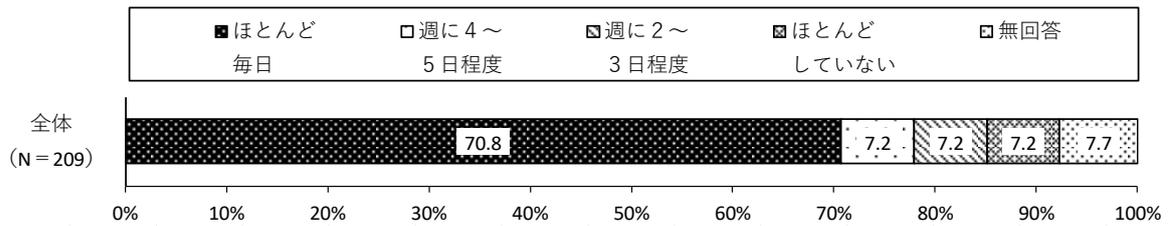
また、「18歳以上」で「ひとり暮らしや、その他の理由で一緒に食事できる人がいない」の割合は11.7%となっています。

【共食の状況（夕ごはん）】

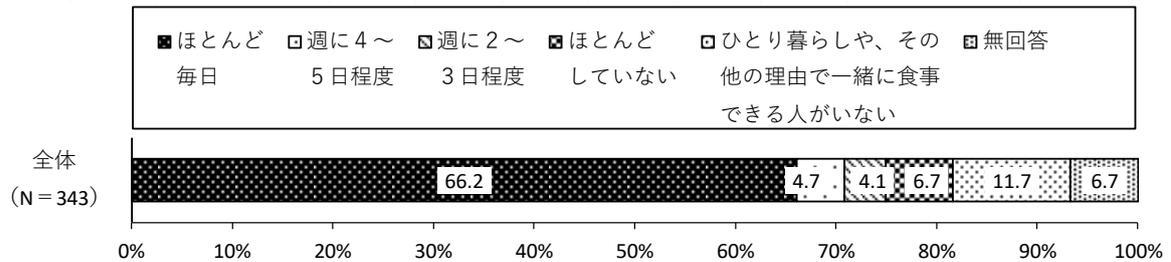
【0歳～12歳の保護者】



【13歳～17歳】



【18歳以上】

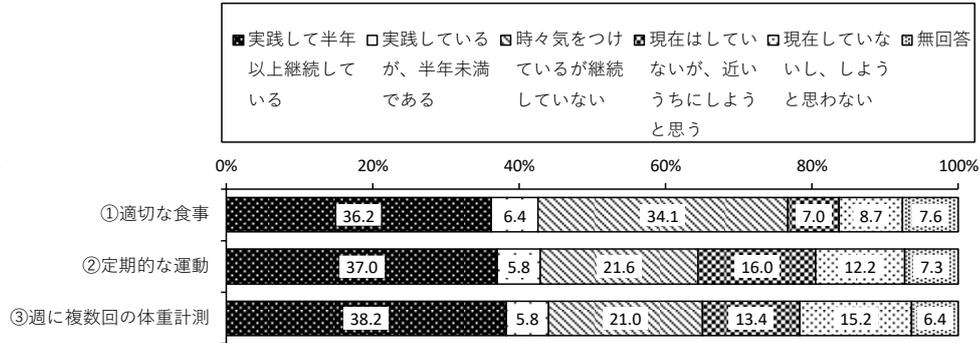


⑦ メタボリックシンドローム対策への取組

「18歳以上」のメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防や改善のために「実践して半年以上継続している」の割合は、「週に複数回の体重測定」が38.2%と最も高く、「定期的な運動」(37.0%)、「適切な食事」(36.2%)の順となっています。

一方、「現在しようとしていないし、しようと思わない」は「週に複数回の体重測定」が15.2%、「定期的な運動」が12.2%、「適切な食事」が8.7%となっています。

【メタボリックシンドロームの予防や改善のためしていること】
(N=343)



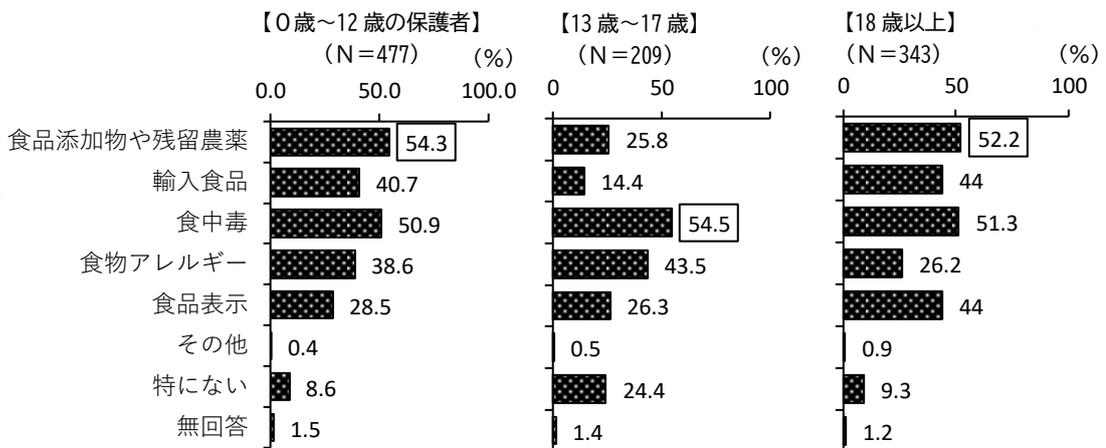
⑧ 食品の安全性

食の安全で関心のあることについて、「0歳～12歳の保護者」は「食品添加物や残留農薬」(54.3%)、「食中毒」(50.9%)、「輸入食品」(40.7%)、「食物アレルギー」(38.6%)、「食品表示」(28.5%)の順となっています。

「13歳～17歳」は、「食中毒」(54.5%)、「食物アレルギー」(43.5%)、「食品表示」(26.3%)、「食品添加物や残留農薬」(25.8%)、「輸入食品」(14.4%)の順となっています。

「18歳以上」は、「食品添加物や残留農薬」(52.2%)、「食中毒」(51.3%)、「輸入食品」及び「食品表示」(いずれも44.0%)、「食物アレルギー」(26.2%)の順となっています。

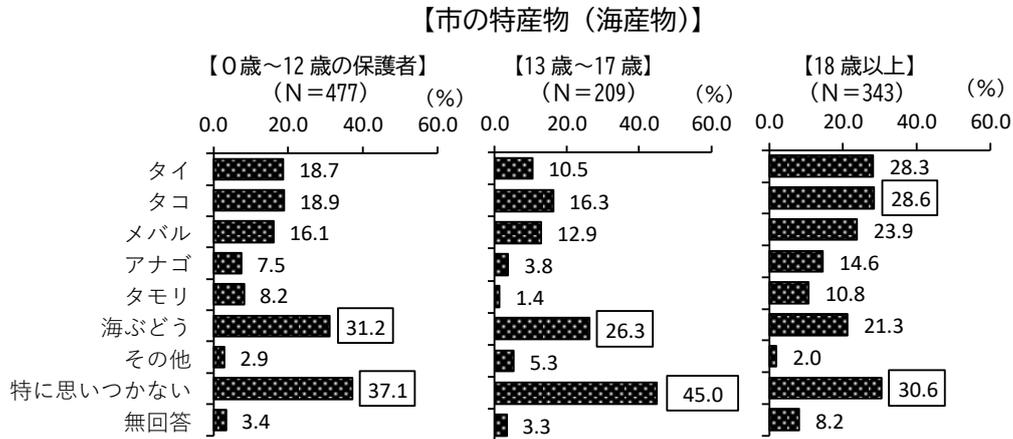
【食品の安全で関心のあること】



⑨ 竹原市の特産物について

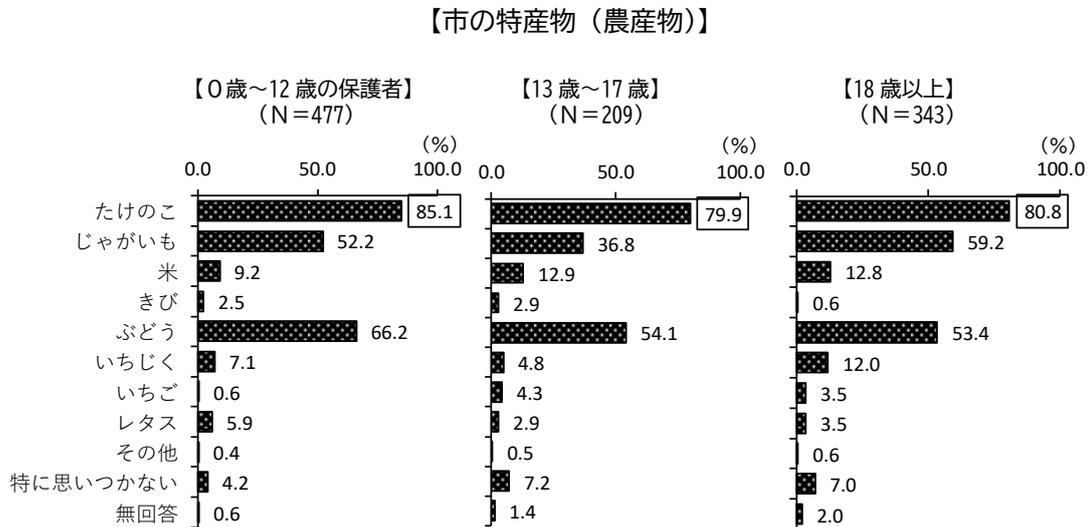
《海産物》

竹原市の特産物について「海産物」では、「0歳～12歳の保護者」及び「13歳～17歳」で「海ぶどう」の割合が最も高く、「18歳以上」では「タコ」が最も高くなっていますが、「特に思いつかない」の割合は、「0歳～12歳の保護者」は37.1%、「13歳～17歳」は45.0%、「18歳以上」は30.6%と高くなっています。



《農産物》

竹原市の特産物について「農産物」では、全ての対象で、「たけのこ」、「ぶどう」、「じゃがいも」が高くなっています。海産物に比べ、「特に思いつかない」の割合が少ない状況がみられます。

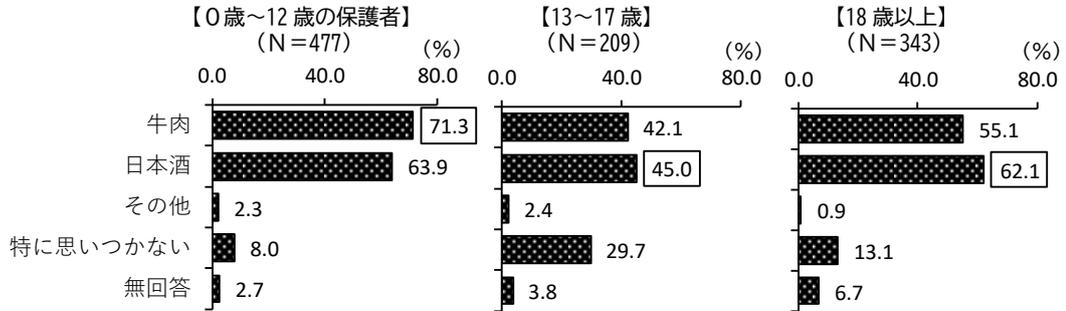


《その他》

竹原市の特産物について「その他」では、全ての対象で「牛肉」及び「日本酒」が高くなっています。

一方、「13歳～17歳」では「特に思いつかない」が29.7%となっています。

【市の特産物（その他）】

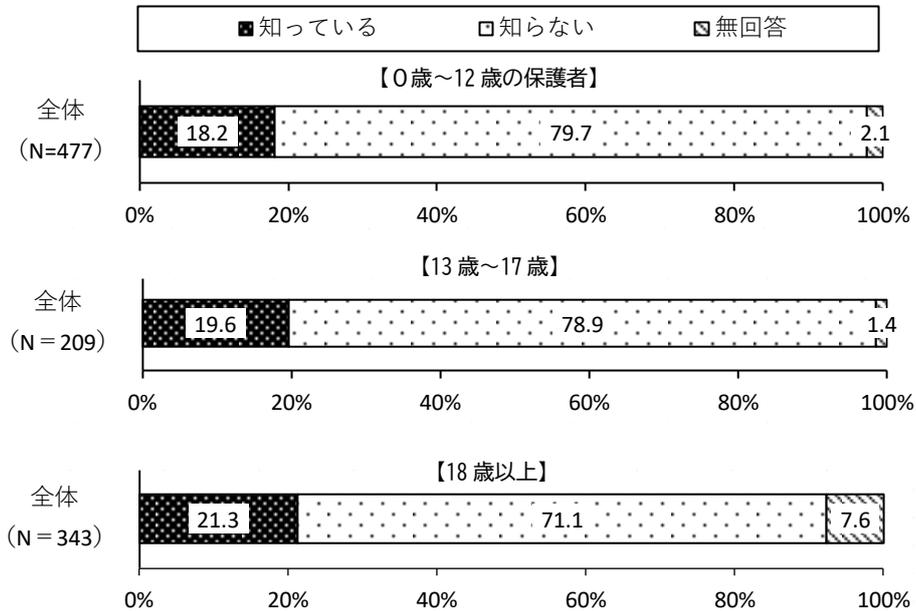


⑩ 郷土料理について

竹原市の郷土料理については、「知っている」の割合が全ての対象で2割程度となっています。

一方、「0歳～12歳の保護者」では「知らない」が79.7%、「13歳～17歳」では78.9%となっています。

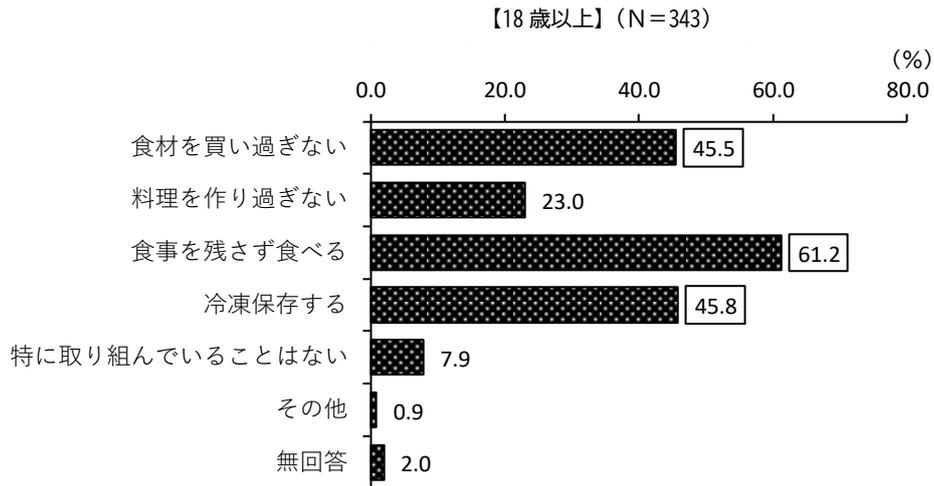
【郷土料理の認知】



⑪ 食べ物を無駄にしないための取組

食べ物を無駄にしないために取り組んでいることについて「18歳以上」では、「食事を残さず食べる」の割合が61.2%と最も高く、次いで「冷凍保存する」(45.8%)、「食材を買い過ぎない」(45.5%)、「料理を作り過ぎない」(23.0%)の順となっています。一方、「特に取り組んでいることはない」の割合は7.9%となっています。

【食べ物を無駄にしないために取り組んでいること】

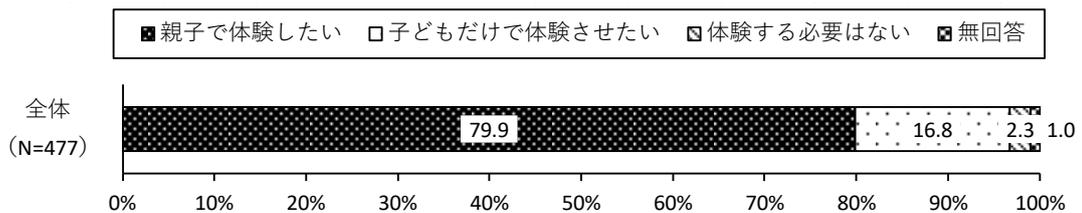


⑫ 農業体験などへの希望

今後の栽培体験等の体験意向について、「0歳～12歳の保護者」は「親子で体験したい」の割合が79.9%、「13歳～17歳」は「体験したい」が36.4%となっています。

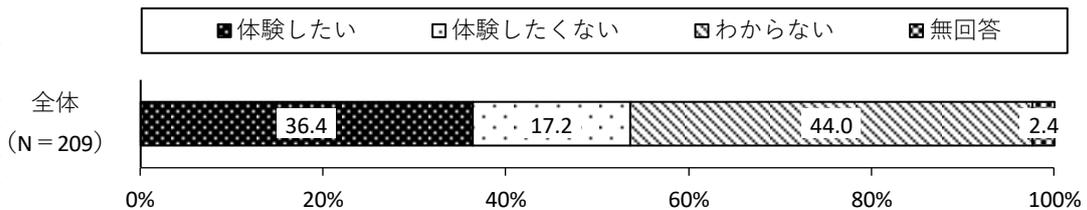
【今後、子どもに栽培体験をさせたいか】

【0歳～12歳の保護者】



【今後、農作業等を体験したいか】

【13歳～17歳】



3 前計画の振り返り

(1) 指標の達成状況

【評価について】

前計画の目標として「最終」の値を設定していましたが、今回の見直しでは、令和4(2022)年度又は令和3(2021)年度に設定した「中間」の値に対して「実績」の評価を行いました。

- ◎：「中間」の目標値を達成
- ：「中間」の目標値は達成していないが改善されている
- ×：「現状」から改善されていない

① 基本目標1 健全な「体」を育む食育の推進

指標	対象	現状 (平成29年度)	中間 (令和4年度)	実績 (令和5年度)	評価
1	よく噛んで食べる、味わって食べるなどの食べ方に関心がある人の割合	73.9%	76%	72.1%	×
	定義	「「味わい方」や「噛み方」といった食べ方に関心がありますか」という質問に対し、関心がある、どちらかといえば関心があると回答した人の割合			
指標	対象	現状 (平成29年度)	中間 (令和4年度)	実績 (令和5年度)	評価
2	メタボリックシンドロームの予防や改善のために、適切な食事や運動を継続的に実践している人の割合	55.1%	55.5%	59.2%	◎
	定義	「あなたはメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防や改善のために、①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測を実践していますか」という質問に対し、いずれかを実践して半年以上継続していると回答した人の割合			

【再掲】

指標	対象	現状 (平成29年度)	中間 (令和4年度)	実績 (令和5年度)	評価	
1	朝ごはんを毎朝食べない人を減らす	20～39歳	23.3%	21%	25.6%	×
		中高生	7.9%	6.5%	15.0%	×
	定義	「ふだん、朝食を食べていますか」という質問に対し、欠食する日が週2回以上あると回答した人の割合				
2	肥満(BMI25以上)と判定された人を減らす	20～69歳 男性	33.3%	29%	32.4%	○
		40～69歳 女性	19.2%	19%	26.6%	×
	定義	市民アンケートによる肥満(BMI25以上)に該当する人の割合				
3	野菜不足の人を減らす	20歳以上	27.8%	25%	29.1%	×
	定義	「食生活で、次のようなことを思うことがありますか」という質問(複数回答)に対し、「緑黄色野菜など野菜不足」に回答した人の割合				
4	塩分の多い食事をしている人を減らす	20歳以上	18%	17%	17.5%	○
	定義	「食生活で、次のようなことを思うことがありますか」という質問(複数回答)に対し、「塩分の多い食事」に回答した人の割合				
5	料理の食材や外食等を選ぶ際、カロリーや栄養成分などを考える人を増やす	20～69歳 男性	31.5%	35%	30.1%	×
		20～69歳 女性	68.1%	70%	41.8%	×
	定義	「① 食材の購入、② 総菜やお弁当の購入、③ 外食する際、カロリーや栄養成分などに気をつけて選んでいますか」という質問に対し、「カロリーや栄養成分などに配慮して選ぶことが多い」と回答した人(①～③の合計)の割合				
6	体重管理のため、食事量等に気をつけている人を増やす	20歳以上 男性	47.5%	50%	56.1%	◎
		20歳以上 女性	72.7%	74%	64.7%	×
	定義	「体重管理のために食事の量や内容に気をつけていますか」という質問に対し、「気をつけている」と回答した人の割合				

② 基本目標2 豊かな「心」を育む食育の推進

指標	対象	現状 (平成29年度)	中間 (令和4年度)	実績 (令和5年度)	評価
1 竹原の食の自慢が言える市民の割合	20歳以上	60.4%	62%	64.7%	◎
定義	「竹原市の食について、あなたが自慢できると思うものは何ですか」という質問に対し、特にないと回答した人、無回答の人を除いた割合				
2 農林業や漁業を体験したことがある人の割合	小学生※	84.4%	87%	80.9%	×
	中学生※	86.0%	88%	83.0%	×
	大人	70.1%	72%	83.7%	◎
定義	「今までに、農林漁業に関する体験(野菜や米などの栽培や収穫、魚釣りなど)を、何か1つでもしたことはありますか」という質問に対し、農林業体験、あるいは漁業体験をしたことがあると回答した人の割合 ※小学生・中学生には、義務教育学校の児童・生徒も含む。				
3 家族と一緒に食事をする子どもの割合(朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方は週6日以上)	小学生※	93.4%	94%	92.8%	×
	中学生※	85.9%	87%	74.0%	×
4 家族と一緒に食事をする人の割合(朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方は週6日以上、ひとり暮らしの人を除く)	20歳以上	80.6%	85%	74.7%	×
定義	「ふだん、家族と一緒に食事をしていますか」という質問に対し、朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方はほとんど毎日と回答した人の割合 ※小学生・中学生には、義務教育学校の児童・生徒も含む。				

③ 基本目標3 躍動する「地域」を育む食育の推進

指標	対象	現状 (平成29年度)	中間 (令和4年度)	実績 (令和5年度)	評価
1 保育所・学校給食の残菜率	保育所	0.63%	0に 近づける	0.58% (令和4年度)	△
	学校※	0.41%	0に 近づける	1.55% (令和4年度)	×
定義	提供重量に対する残菜重量の割合 ※保育所のこども園への移行に伴い、令和5年度は、こども園の実績 ※学校には、義務教育学校も含む。				
2 食事を残さず食べる人の割合	20歳以上	60.1%	65%	61.4%	○
定義	「食べ物を無駄にしないために取り組んでいることはありますか(どんな行動をしていますか)」という質問に対し、食事を残さず食べると回答した人の割合				
3 県内産や市内産の食材を意識して買う人の割合	18歳以上	県内産 15.2%	県内産 17%	21.9%	◎
		市内産 18.3%	市内産 19%		◎
定義	「食品を選ぶときに、特に意識していることは何ですか」という質問に対し、市内産、県内産と回答した人の割合				

4 アンケート調査及び団体ヒアリング並びに指標の達成状況から見えてくる課題

(1) 望ましい食習慣の定着

「13歳～17歳」の朝ごはんを「毎日食べる」の割合は減少し、「ほとんど食べない」の割合が増えています。その反面、自分の食事では「特に問題ない」と回答した割合が高いことから、成長期の食習慣について正しい認識を持つための啓発が必要です。しかし、身につけておきたい食習慣の中に、「料理をすること」「栄養バランスを考えた健康的な食事のしかた」が50%以上となっており、将来の健康のために食事は大切であることへの理解はできています。

「18歳以上」の自分の食事については、「緑黄色野菜などの野菜不足」「果物類の不足」「摂取品目が少ない」の回答が多く、栄養バランスのとれた食事に対する関心を高める必要があります。

メタボリックシンドローム対策の取組では、適切な食事を半年以上継続している人の割合は増えており、体重管理に気をつけている男性の割合は目標値に達していますが、料理の食材や外食の時に、カロリーや栄養成分に配慮する割合は低くなっています。

団体ヒアリングでは、朝ごはんを毎日食べることについての継続的な啓発や、30代から60代の働き世代への適正体重や減塩等の取組の推進が課題となっていました。

全ての世代において、継続的に望ましい食習慣の定着を図っていくことが必要です。

(2) 食環境や食体験の機会の整備

朝ごはんの共食については、「13歳～17歳」は4割近くが家族と一緒に食べていないと回答しています。朝ごはんの大切さとともに、共食の大切さを伝え、家族の協力を求めるなどの啓発方法等についても検討していくことが必要です。

また、農業体験等の希望について、「0歳～12歳の保護者」では親子又は子どもだけでも参加したいと回答した割合が9割以上となっていますが、「13歳～17歳」では体験したいは3割程度にとどまっており、わからないと回答した割合は4割を超えています。体験できる環境づくりや、栽培体験を通じて、食べ物や生産者への感謝の心を育む取組が必要です。

団体ヒアリングでは、孤食の子どもたちのための居場所が必要であることや、共食の推進のために関係団体や地域が協力していくことが課題となっていました。

(3) 食品の選択や環境に配慮した食行動

市の特産物（農産物）の「たけのこ」「ぶどう」「じゃがいも」の周知度は高く、このような特産物を利用した料理を様々な場所で紹介していることが一因と考えられます。

また、「18歳以上」の県内産や市内産の食材を意識して購入する割合が増加し、食事を残さず食べる割合も増加していることから、食べ物を無駄にしないという意識も高まっています。

今後は、食品ロス削減に向けた取組を継続し、幅広い世代で環境に配慮して行動する市民が増加するような取組が必要です。

5 基本的な考え方

(1) 計画のめざす姿

第4次食育推進基本計画では、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、「持続可能な食を支える食育の推進」、「『新たな日常』やデジタル化に対応した食育の推進」を基本的な方針として推進しています。

本市では前計画の取組を継続又は拡大・充実することにより、市民の食育推進をより一層推進していくため、「第3次食育推進行動計画」のめざす姿は、

地域の『食』を通じて、健全な体と豊かな心を育むまち たけはら

とします。

(2) 基本目標

「第3次食育推進行動計画」の基本目標については前計画を踏襲しますが、第4次食育推進基本計画や県の動向を踏まえながら、具体的な施策や取組を進めていきます。

基本目標1 健全な「体」を育む食育の推進

基本目標2 豊かな「心」を育む食育の推進

基本目標3 躍動する「地域」を育む食育の推進

(3) 計画の方向性

施策	取組
【基本目標1】 健全な「体」を育む食育の推進	① 市民が食生活を改善する環境を整える
	② 市民が食品を選択する力を身につける
	③ ライフステージごとの食育運動を展開する
	④ 噛むことの大切さを周知する
【基本目標2】 豊かな「心」を育む食育の推進	① 郷土料理・行事食・家庭料理を周知・継承する
	② 家庭や地域の中での共食の機会や世代間交流の場を増やす
	③ 生産・調理・消費の体験の機会を増やす
【基本目標3】 躍動する「地域」を育む食育の推進	① 特産物を活用するしくみづくりを検討する
	② 家庭・地域・学校の連携を強化する
	③ 企業との交流を図る
	④ 無駄や廃棄を減らす
	⑤ 災害時に備えた食育の推進【新規】

6 行動計画

本計画のめざす姿である「地域の『食』を通じて、健全な体と豊かな心を育むまち たけはら」の実現に向け、3つの基本目標と各行動計画を設定します。

基本目標及び行動計画については、前計画を継続又は拡充することを基本としますが、社会情勢等の変化を踏まえて、新たな項目を追加します。

また、市民一人一人が生涯にわたって健全な食生活を実践できるように、市民の行動目標を設定します。

【基本目標1】健全な「体」を育む食育の推進～噛んで育む 元気なからだ～

《市民の行動目標》

- ◎ 朝ごはんを毎日食べる
- ◎ 自分の適正体重を知る
- ◎ 栄養成分や食品表示に興味を持つ
- ◎ 一日の食塩摂取量を減らす
- ◎ よく噛んで味わって食べる



《行政の取組》

① 市民が食生活を改善する環境を整える

取組	行政（担当課）
ア おすすめレシピ等の情報発信手段の多様化を図る。【新規】 イ 朝ごはんの大切さを周知・啓発する活動を充実する。	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課
ウ 適正体重の周知・啓発のための取組を推進する。	市民課 社会福祉課 健康福祉課 総務学事課

② 市民が食品を選択する力を身につける

取組	行政（担当課）
ア 乳幼児健康診査、こども園・学校、通いの場等で栄養に関する資料の見える化を図る。【新規】	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課
イ 健康生活応援店の普及を推進する。	保健所
ウ 栄養成分や食品表示を確認して購入するなどの消費者教育を充実する。	産業振興課 健康福祉課

③ ライフステージごとの食育運動を展開する

取組	行政（担当課）
ア 妊産婦に対する栄養相談等の充実を図る。 イ 離乳食教室、幼児食教室を充実する。 ウ 高齢者向け料理教室を充実する。 エ 男性料理教室を充実する。	健康福祉課
オ 乳幼児の保護者向けの栄養相談や栄養指導を充実する。	社会福祉課 健康福祉課
カ こども園や学校での食育推進を充実する。	社会福祉課 総務学事課
キ 中学生にお弁当づくりを体験させる。	総務学事課

④ 噛むことの大切さを周知する

取組	行政(担当課)
ア 乳幼児健康診査などで噛み方指導をする。 イ お口の体操の普及を図り、お口の健康の重要性を啓発する。	健康福祉課
ウ 噛むことの大切さを啓発する。	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課

≪指標≫

指標	対象	現状 (令和5年度)	中間 (令和11年度)	最終 (令和16年度)
1 よく噛んで食べる、味わって食べるなどの食べ方に関心がある人の割合	20歳以上	72.1%	76%	80%
定義	『「味わい方」や『噛み方』といった食べ方に関心がありますか』という質問に対し、関心がある、どちらかといえば関心があると回答した人の割合			

≪再掲≫

指標	対象	現状 (令和5年度)	中間 (令和11年度)	最終 (令和16年度)
1 朝ごはんを毎朝食べる人を増やす	① 20～39歳	72.3%	75%	80%
	② こども園の園児	96% (令和4年度)	100%	100%
	③ 小学生*	85%	100%	100%
	④ 中学生*	86%	100%	100%
定義	「ふだん、朝ごはんを食べていますか」という質問に対し、毎日食べると回答した人の割合 (20～39歳は「市民アンケート調査」、こども園は3歳以上児対象の「朝ごはん調査」、小学校偶数学年、中学校1・2学年対象の「早寝・早起き・朝ご飯キャンペーン」) ※小学生・中学生には、義務教育学校の児童・生徒も含む。			
2 肥満(BMI25以上)と判定された人を減らす	20～69歳 男性	32.4%	29%	26%以下
	40～69歳 女性	26.6%	22%	18%以下
定義	市民アンケートによる肥満(BMI25以上)に該当する人の割合			
3 野菜不足の人を減らす	20歳以上	29.1%	25%	22%以下
定義	「食生活で、次のようなことを思うことがありますか」という質問(複数回答)に対し、「緑黄色野菜など野菜不足」に回答した人の割合			
4 塩分の多い食事をしている人を減らす	20歳以上	17.5%	17%	16%
定義	「食生活で、次のようなことを思うことがありますか」という質問(複数回答)に対し、「塩分の多い食事」に回答した人の割合			
5 料理の食材や外食等を選ぶ際、カロリーや栄養成分などを考える人を増やす	20～69歳 男性	30.1%	35%	40%
	20～69歳 女性	41.8%	60%	73%
定義	「①食材の購入、②総菜やお弁当の購入、③外食する際、カロリーや栄養成分などに気をつけて選んでいますか」という質問に対し、「カロリーや栄養成分などに配慮して選ぶことが多い」と回答した人(①～③の合計)の割合			
6 体重管理のため、食事量等に気をつけている人を増やす	20歳以上 男性	56.1%	60%	65%
	20歳以上 女性	64.7%	70%	75%
定義	「体重管理のために食事の量や内容に気をつけていますか」という質問に対し、「気をつけている」と回答した人の割合			

《ライフステージ別の行動目標》

乳幼児期 (0～5 歳)	児童・少年期 (6～17 歳)	青年期 (18～29 歳)	壮年期 (30～44 歳)	中年期 (45～64 歳)	高年期 (65 歳以上)
早寝・早起き・朝ごはんの習慣をつける		栄養バランスを考えた朝ごはんを毎日食べる			
成長曲線を 確認する	標準体重を維持する (無理なダイエットはしない)	定期的に体重測定をする			
塩分の摂りすぎに注意する					
食品の購入時は栄養成分表示等を確認する					
月齢・年齢 にあった噛 み方を知る	よく噛んで食べる				お口の体操 を毎日する

【基本目標2】豊かな「心」を育む食育の推進～地元の食材 地元のところ～

《市民の行動目標》

- ◎ 食文化を大切にする
- ◎ 家庭や地域で楽しく作ったり食べたりする

《行政の取組》

① 郷土料理・行事食・家庭料理を周知・継承する

取組	行政（担当課）
ア 郷土料理の情報提供手段の検討を進める。	健康福祉課
イ こども園や学校で行事食の周知を充実する。	社会福祉課 総務学事課

② 家庭や地域の中での共食の機会や世代間交流の場を増やす

取組	行政（担当課）
ア 1日1回は家族みんなで食事をするよう様々な手段で啓発する。	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課
イ こども園や学校で地域と交流する機会を持つ。	社会福祉課 総務学事課

③ 生産・調理・消費の体験の機会を増やす

取組	行政（担当課）
ア 高齢者と子どもと一緒に調理する機会を作る。【新規】	健康福祉課
イ 家庭やこども園・学校での調理・栽培体験を充実する。	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課

《指標》

指標	対象	現状 (令和5年度)	中間 (令和11年度)	最終 (令和16年度)
1 竹原の食の自慢が言える市民の割合	20歳以上	64.7%	65%	67%
定義	「竹原市の食について、あなたが自慢できると思うものは何ですか」という質問に対し、特にないと回答した人、無回答の人を除いた割合			
2 農林業や漁業を体験したことがある人の割合	小学生*	80.9%	87%	90%
	中学生*	83.0%	88%	90%
	大人	83.7%	84%	85%
定義	「今までに、農林漁業に関する体験(野菜や米などの栽培や収穫、魚釣りなど)を、何か1つでもしたことはありますか」という質問に対し、農林業体験、あるいは漁業体験をしたことがあると回答した人の割合 ※小学生・中学生には、義務教育学校の児童・生徒も含む。			
3 家族と一緒に食事をする子どもの割合(朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方は週6日以上)	小学生*	92.8%	94%	95%
	中学生*	74.0%	82%	90%
4 家族と一緒に食事をする人の割合(朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方は週6日以上、ひとり暮らしの人を除く)	20歳以上	74.7%	82%	90%
	定義	「ふだん、家族と一緒に食事をしていますか」という質問に対し、朝ごはん・夕ごはんのいずれか一方はほとんど毎日と回答した人の割合 ※小学生・中学生には、義務教育学校の児童・生徒も含む。		

《ライフステージ別の行動目標》

乳幼児期 (0～5歳)	児童・少年期 (6～17歳)	青年期 (18～29歳)	壮年期 (30～44歳)	中年期 (45～64歳)	高年期 (65歳以上)
日本の伝統行事や食文化を大切にする					
家族や仲間などと一緒に食事をする機会を大切にする					
調理・栽培体験を楽しむ		調理や栽培体験をする機会を作る			

【基本目標3】躍動する「地域」を育む食育の推進～つなげる食育 つなげる食育～

《市民の行動目標》

- ◎ 地場産物を知り、積極的に使っていく
- ◎ 食事のマナーに気をつけ、次世代に伝えていく
- ◎ 食べ残しを減らしたり、環境に配慮した調理の工夫をする
- ◎ 災害時に備えた食品等の準備をする

《行政の取組》

① 特産品を活用するしくみづくりを検討する

取組	行政（担当課）
ア ふるさと納税の返礼品としての特産物の拡充等を図る。 イ 旬の特産物の情報を伝え、地産地消を促すキャンペーンを充実する。 ウ 特産物を生産・調理する体験の機会をつくる。 エ 6次産業化・地産地消推進事業にて地産地消を推進する団体の活動を支援する。 オ 農業生産工程管理（Good Agricultural Practices:GAP）等の周知による生産者記録等の生産管理を推進する。	産業振興課
カ 地場産物を使ったレシピを広め、地場産物の活用を推進する。	社会福祉課 健康福祉課 総務学事課
キ こども園や学校の給食、福祉施設などで竹原産の優先的な使用を推進する。	産業振興課 社会福祉課 総務学事課

② 家庭・地域・学校の連携を強化する

取組	行政（担当課）
ア ひとり暮らしの高齢者に食の情報を届ける。	健康福祉課
イ 簡単に作れる身体にいいレシピを定期的に発信する。	社会福祉課 健康福祉課
ウ こども園や学校でお箸の持ち方を指導する。 エ 食事のマナーの意識を高める取組を推進する。	社会福祉課 総務学事課

③ 企業との交流を図る

取組	行政（担当課）
ア 食のイベントで市内の飲食店や特産品を紹介する。 イ 地元産の加工食品の開発を充実する。	産業振興課
ウ 学校などへの出前授業やオンライン工場見学等により、加工食品ができるまでの学習を実施する。	総務学事課

④ 無駄や廃棄を減らす

取組	行政（担当課）
ア 食物ロス（フードロス）について周知・啓発する。	市民課
イ 地域や健康教育で環境に配慮した調理の工夫をすることを啓発する。	地域づくり課 健康福祉課

⑤ 災害時に備えた食育を推進する【新規】

取組	行政（担当課）
ア 災害時に備えた食育を推進する。	地域づくり課 社会福祉課 健康福祉課
イ 災害時にバランスよく食事をとるための知識と技術を普及する。	健康福祉課

《指標》

指標	対象	現状 (令和5年度)	中間 (令和11年度)	最終 (令和16年度)
1 食事を残さず食べる人の割合	18歳以上	61.2%	65%	70%
定義	「食べ物を無駄にしないために取り組んでいることはありますか(どんな行動をしていますか)」という質問に対し、食事を残さず食べると回答した人の割合			
2 県内産や市内産の食材を意識して買う人の割合	18歳以上	21.9%	23%	25%
定義	「食品を選ぶときに、特に意識していることは何ですか」という質問に対し、市内産、県内産と回答した人の割合			

《ライフステージ別の行動目標》

乳幼児期 (0～5歳)	児童・少年期 (6～17歳)	青年期 (18～29歳)	壮年期 (30～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)
地元の食材を知る		地元の食材や食品を意識して使う			
お箸の持ち方 を習う	食事のマナー を守る	食事のマナーを守り、家族に伝える			
給食や食事を 残さず食べる		食べられる食品を廃棄しないよう工夫をする			
		環境に配慮した調理を心がける			
災害時に備え食品等を準備する・災害時に備えた調理法を知る					

7 計画の推進

(1) 様々な主体による推進

市民・地域・企業・関係団体・行政など様々な主体が、それぞれの役割の下で食育の取組を実施できるよう支援していきます。

(2) たけはら食育未来会議

市民が竹原市の食の資源を生かしながら、楽しく健康で心豊かな生活を送るために、教育・生産・ボランティアなど多くの活動の中で様々な方々の力を借りて取り組んでいく必要があります。そのため、市民・地域・企業・関係団体・行政などが参画するネットワーク型の「たけはら食育未来会議」を設置しています。

この会議の中では、本計画の市民の行動目標が達成するような取組や事業に対する情報発信、食育に関する取組支援を、多方面のメンバーと協議しながら連携して活動していきます。